

## 梅窓院通信

お盆号

No.89

2017/06/01

青山



梅窓院の蓮池に咲く蓮の花。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成



今年も早いもので半年が過ぎようとしています。この春は暖かさと寒さが行ったり来たり、温暖化にともなう異常気象を身近に感じた春になりました。

さて、間近となった盂蘭盆会法要ですが、回向料と塔婆料を少々上げさせていただきました。誠に申し訳ありませんが、ご理解ご協力をお願い致します。

お気づきの方も多いかと思いますが、墓苑の奥にそびえる相輪前に樹木葬用墓苑を造成しています。合同供養墓や納骨堂などに続く新しい形態のお墓のひとつが樹木葬です。最近は大いぶあちらこちらで見かけるようになりましたが、高過ぎない石塀で囲むなど、梅窓院ならではの墓苑にしたいと思っています。詳細は追ってお知らせ致します。

同じく墓苑に関しては最勝宝塔前の階段をスロープにすることで、墓苑の完全バリアフリー化が完成します。多くの皆様にご理解ご協力をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

話は変わって秋彼岸の写真展についてです。今は携帯電話で撮影する写真の質が本当に良くなりました。梅窓院の写真展は、カメラはもちろん、こうした携帯電話で撮影した写真のデータをいただければ、こちらでプリントして展示させていただきます。写真好きの私としては多くの方の作品を拝見したく、皆様のお気軽なご応募をお待ちしています。

最後に恒例の傳通院、祐天寺、梅窓院の三か寺による団体参拝ですが、今年はいギリスのロンドンに訪れる予定と、担当いただく傳通院さんから伺っています。ご興味のある方は梅窓院までご一報下さい。

盆浴衣と盆団扇

新宿区 香蓮寺住職

勝崎裕彦

か つて旧暦時代、お盆は陰暦七月、初秋の年中行事であった。新秋・新涼の風に乗って、今は亡き精霊が盆棚へ帰っていらっしやる――、精霊をお迎えして在りし日をなつかしみながら、初秋・初涼のすずやかな時を過ごし、お盆行事が終われば、やがてもう秋たけなわ、秋本番であった。

さて現在は七月盆、そして月遅れの八月盆、いずれも夏の真っ盛り、盛夏の行事ということになる。そうした中で、夏の生活に合わせたものもろろが現在のお盆行事の営みの一つ一つとなる。古き生活の中品々、たとえば浴衣着や扇子・団扇などをお盆の頃に置いてみれば、そこに夏の風物詩として受けとめるべき殊更な情趣も生まれるわけである。もつとも冷房設備の完備をはじめとする二十一世紀の新しい暮らし向きに、これから書こうとする話柄がそぐわないという危惧も大いにあるが、ともかく拙文を進めてみよう。

というのは、浴衣や団扇という夏季の季節にお盆の風趣を添えて、盆浴衣や盆団扇として、夏のお盆俳話を綴ってみたのである。もともと踊・盆踊の季節の中に

は盆浴衣・踊浴衣の季語がある。しかし盆踊と浴衣着を関連づけた例句はなかなか見つからない。そこで、

夕日あかあか浴衣に身透き日本人 (草田男)

という中村草田男の名句を挙げて、これをたとえば八月盆の一日に置いてみようか。

手にとりておもはぬからと初団扇 (蒼石)

飯田蛇笏・龍太に師事した松村蒼石の句。自然な写生を恬淡と心がけた蒼石の句姿を、盆団扇に通じさせることは失礼であったか。

生きてまた風鈴と棲み合掌す (正三)

日野草城門の小寺正三の句を引いて、盆風鈴の音色を味わってみる。

白描の白衣観音夏座敷 (春二)

水原秋桜子門で、『馬酔木』の同人瀧春一の仏教俳句から、盆座敷の情景を想像してみた次第である。

このようにお盆風景に擬して、どちらかといえば過ぎし日の二十世紀の夏の情趣を辿ってみたのであるが、お盆飾りにもかかわる走馬灯・回り灯籠は三夏にわたる夏

の季語である。かつては夏の夕べを楽しむものであり、また慰めるものでもあった。

亡き人の芸きびしかり走馬燈 (青風)

走馬燈廻るあの世の子を連れて (博史)

仏壇とまはり燈籠と灯るのみ (爽雨)

いづれも今は亡き人へ寄せる思いを込めた句である。松本青風と青木博史の両氏については寡聞にして多くを知らないが、皆吉爽雨は『ホトトギス』同人で、対象を深くよく探求した写生で大きな境地を開いた人である。

夏の景物の中にお盆の情景を思い重ねてみる。現行のお盆行事、あるいはお盆をめぐるいろいろな祭事は、まさに夏の年中行事である。しかも歴史的伝承に支えられてきた日本人のゆかしい行事でもある。

このように、陰暦七月の初秋の季語欄に置かれるお盆行事の俳句の世界。新旧の暦の差異による季節感のズレ・ボヤケに関して、七月、八月の現行に合わせた夏の風情を表す新しいお盆の俳諧の季語を作って行くことも、これからは大いに考えなくてはならない。そのことが伝統のお盆行事のさらなる継承にも繋がって行くことであろう。(天正大学名誉教授)

三月・四月の

行事報告

平成二十九年春彼岸法要 三月二十日(月)祝

増上寺詠唱奉納大会 四月三日(月)



詠唱大会



寄席



法要



花御堂

はなまつり 四月七日(金)・九日(日)



今年も19・20日と郡上八幡物産展を開催致しました。



尼僧によって動物慰霊法要が執り行われました。

# お盆

七月十三日(木)

孟蘭盆會法要

午前十時半～ 地下二階 祖師堂

# 御棚経

七月十三日～十五日

## お盆に寄せて

訪ね、母を救う方法はないか教えを請いました。

お釈迦様は「目連の母は我が子可愛さのあまり、他人の子には施すことがなかった罪で餓鬼道に苦しんでいる」と説明され、「九十日間の安居(一定期間、一か所に集まって集団で修行すること)の終わり、七月十五日に多くの僧へたくさんの飲食の施しをすれば、その功德で母親を救うことができる」と教えられました。

そこで、教えの通りにされると母親がたちまちに救われた、との経説により、七月十五日(または八月)を中心にお盆の行事が行われるようになりました。

このようにお盆は、苦しんでいる亡き母を何とかして救いたい、という目連尊者の願いから生まれたものであります。

それと同時に、ご先祖様や身内だけではなく無縁の諸精霊に対しても供養の気持ちをお忘れな事が大切であると説かれております。そういった気持ちで、自らの心を豊かにし、安らぎのあるものへと導いていくのではないのでしょうか。

今、私達が生かされているのは、過去世の人々、現世の人々のお陰であることを思い起こし、あらゆる精霊を供養し、父母はもちろんお世話になっている方々や物へ感謝しましょう。

(法務部)

棚経については同封の別紙「お盆について」をご覧ください。また、不明な点がございましたら梅窓院法務部へお問い合わせ下さい

## 孟蘭盆会 塔婆・回向のお申込み方法とお知らせ

### ◆孟蘭盆会 塔婆・回向お申込み方法

孟蘭盆会法要に関しましては短冊でのお申込みを取りやめ、はがきで「塔婆回向」と「回向のみ」を、御一緒にお申込み頂けるようになりました。それぞれ冥加料が異なりますのでご注意ください。

塔婆回向 1 本 ..... 8,000円

御回向料 1 霊 ..... 4,000円

### お申込み方法

同封はがきにご記入の上、7月1日(土)必着でお申込み下さい。

はがきの書き方は同封の「書き方例」をご参照下さい。

### お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、当院受付までお持ち下さい。銀行・コンビニでのお支払はできません。

ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせ下さい。

季節的な宗教行事として馴染み深いお盆ですが、そもそもお盆の由来とは、インドの言葉で「ウランバナ」といい、孟蘭盆と音写され、「さかさに吊るされる苦しみ」との意味で、その苦しみを救う方法が『孟蘭盆経』に説かれています。

お釈迦様の弟子に、目連尊者と言われる神通力をもった方がおり、ある日、目連尊者が神通力をもって先に亡くなられた母親が、あの世でどうなされているのか御覧になられました。

すると餓鬼道に落ち、骨と皮だけとなつて苦しんでいる母の姿がありました。食べる事も飲むこともできず、まさに「さかさに吊るされる苦しみ」を味わっていたのです。その様子を見た目連尊者は嘆き、悲しみます。お釈迦様を

**司会** 本日はよろしくお願ひ致します。  
まず、孟蘭盆会と棚経の関係からお  
教えいただけますか。

**藁谷** 孟蘭盆会は梅窓院ではわりと  
新しい法要で、およそ二十年前から檀  
信徒さんが急増する中で、全檀信徒の  
ご自宅へ棚経で伺うのが難しくなり始  
めて、その代りになる法要です。

**司会** 平成になってからですね。

**藁谷** はい、平成五年に現在の住職に  
なり、墓地整備などを行う中で檀信徒  
さんが増えましたので、それを機に新  
盆を迎える檀信徒さん以外はお寺に  
来ていただく、ということではじめま  
した。

**司会** 新盆とはどういうことですか。

**津村** 故人さまが最初に迎えるお盆  
のことです。たとえば今年新盆を迎える  
方は、去年の五月二十六日から今年の  
五月二十五日の間に亡くなられた方々  
です。

つまり、四十九日を迎え盆(七月十  
三日)までに迎えた方々になります。

**司会** なるほど、お盆までに仏になら  
れた方、ということですね。

**津村** はい、梅窓院では毎年百軒を超  
えるお宅が新盆を迎えられます。

**司会** 百軒以上ですか、大変ですね。

今回は副住職と中堅、若手僧侶にお集まりいただきました。



ご先祖様がそれぞれのご自宅に戻って来られるお盆。その成り立ちは  
前頁の「お盆に寄せて」をお読みいただきたいのですが、一般的に日本  
全国、お盆は8月。夏休み中の8月13日にお盆を迎えますが、東京の  
中心部とその周辺の一部地域はその8月を避け7月にお盆を行います。  
梅窓院では7月13日に孟蘭盆会法要を行い、その日から3日間、新  
盆のお宅へお坊さんが伺ってお経をあげる棚経を行っています。  
今回はこの孟蘭盆会と棚経について、梅窓院法務部の僧侶の  
みなさんにお話ししていただきました。

## 梅窓院の

# 「孟蘭盆会」と「棚経」



わらがい しんきょう  
**藁谷 真敬**

昭和47年に先代の中島真哉住職の弟子として梅窓院に入山。現在は梅窓院副住職として法務全般を統括している。

**藁谷** 昔は全檀家、七百から八百軒の  
ご自宅の半分は回っていましたから、  
それに比べれば……。

**司会** 四百軒近くを三日間ですか？

**藁谷** はい。この『青山』の連載記事、  
囲む人々の梅真会シリーズに登場する  
お坊さんたち、つまり全国のOBにも  
お手伝いいただいています。

**司会** 檀信徒さんのお宅がみんなお  
隣同士ならいざ知らず離れているわけ  
ですから大変ですね。

**藁谷** そうですね。

私は先代の中島真哉住職に「藁谷  
君、君は方向音痴で帰って来られなく  
なるといけないから、青山通りの檀信  
徒を回りなさい」と。それでも間違っ  
てカナダ大使館に入ったことがありま  
した(笑)。

**司会** そうですか、昔は携帯電話もナ  
じもありませんものね。今は迷う心配  
はないですか。



つむら しよしゆく  
**津村 祥徳**

平成22年に梅窓院に入山。秋田県横手市の九品寺出身。8年目を迎える中堅で、真面目で几帳面なお坊さん。

**若麻績** はい、私は車で回りますが、ちゃんと自宅へ着きます(笑)。

お葬式でお経をあげさせていただいたお宅へよく伺いますが、いつも温かく迎えて下さいます。中にはご家族だけではなく親戚一同でお迎えいただき、一緒にお経を唱えたこともあります。

**津村** 私もいつも親切にいただいています。電車で伺うこともあるのですが、次の棚経先を聞かれ、便利な路線の駅まで車で送ってもらうこともありました。車中で僧侶として、若者として色々聞かれることがあって、有難いことです。

**司会** 棚経であげるお経はどんなお経で、どのくらいの時間がかかるのでしょうか。

**津村** ご自宅であげるお経ですが、お坊さんにより平均すると十五分前後でしょうか。

あげるお経は、大勢の方々に回向す

る盂蘭盆会法要と、新盆の故人さま、それぞれに向き合って回向する棚経では少々異なります。

**司会** それほど長くはないのですね。

**藁谷** ええ、ですが、ご自宅で聞かれるお経も素敵ですよ。

余談ですが、先代の頃は新しいお坊さんは、住職の前で一人ひとり棚経のお経をあげさせられ、合格しないと、棚経に行かせてもらえませんでした。

**司会** そんなこともあったのですね。最後に棚経のいいところを教えてください。

**若麻績** 新盆を迎える故人さまですら、まだ親近感が残っているの、一



わかおみ たいせい  
**若麻績 大成**

平成25年に梅窓院に入山。長野善光寺門前の浄願坊出身。親しみやすく笑顔が魅力のお坊さん。浄願坊は梅窓院団体参拝で宿泊している。

緒に思い出話ができるのがいいですね。お盆でご自宅にお戻りになっている故人さまも喜ばれると思います。

また、お昼ご飯や場合によっては夕食も一緒にさせていただくことがあり、そうすると、そのご家族との距離が一気に縮まるようで、ご縁が深まり、その後はお寺でもお話しがしやすくなります。

**津村** 普段、お寺でお会いする時と違い、ゆっくり話ができるのも棚経ならではだと思います。故人さまの話以外にも仏事の相談や、普段、疑問にお思いなことにもしっかりと答えることができます。

**藁谷** 以前はお盆といえば、盆提灯を灯し、迎え火、送り火をしていましたが、みなさん引越されたり、マンション住まいなど、今は物理的に難しくなりました。ですが、故人や先祖をお迎えするという気持ちは大切に伝えていく欲しいですね。

また、現在は新盆を迎える総代さまのお宅は住職が回りますが、それ以外は若い僧侶が回ることが多く、お宅の遠い近いや狭い広いを気にせずにお声をかけてもらいたいです。

ご自宅にお戻りになられた故人さまを供養する年に一度の機会ですから。

**司会** なるほど。それで棚経に来ていただくための準備はどうしたらよいのでしょうか。

**藁谷** 準備に関してはこの『青山』に同封されている「お盆について」のチラシを参考にいただければよいと思います。図解入りでわかりやすく説明してありますよ。

同時に大切なのは、新盆を迎える故人さまや、ご先祖さまへの感謝の気持ちですね。「形」と「心」、その両方を整えていただきたいですね。

**司会** そうですね。みなさん、本日はありがとうございました。

### ★御棚経希望の方へ

御棚経ご希望の方は、お宅に伺わせて頂きます。詳細は、梅窓院法務部までお問い合わせ下さい。

※お申込みは、六月十五日(木)までお願い致します。

# 梅窓院を囲む入々

梅窓院開基・青山家の故郷  
岐阜県郡上八幡観光協会

会長

今号は梅窓院の春彼岸で毎年物産展を開かれている岐阜県郡上市の名産品、ニッキ餡の名店、桜間見屋の六代目店主であり、郡上八幡観光協会の会長になられた さんに梅窓院でお話しを伺った。



戦火を逃れた暖簾がシンボルの桜間見屋さん。



郡上八幡を代表する土産品にもなっている肉桂玉と黒肉桂。どちらも桜間見屋の看板商品だ。

◆本日はお時間をいただき、ありがとうございます。さっそくですが、今日(3月19日)から始まった梅窓院での郡上八幡の物産展、いかがですか。

郡上八幡観光協会会長 (以下 )

はい、春彼岸中日を翌日に控える日曜日でしたので、多くの方に寄ってもらえました。

◆そうですか、それは何よりです。

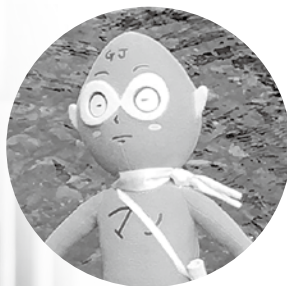
さて、最初は郡上八幡観光協会の 会長ではなく、創業明治20年の老舗、元祖肉桂玉本舗、現在も肉桂玉の名店として名高い桜間見屋の店主としての さんに伺いたいのですが、郡上八幡に肉桂玉のお店が生まれたのはなぜなのですか。

江戸時代、砂糖は贅沢品でしたが、明治になって自由に使えるようになりました。そこで創業者が京都の銘菓、ニッキ味の八橋を真似て作ったと聞いています。

◆そうですか、京都の銘菓からですか、まさに伝統の味なのですね。

ホームページを拝見すると肉桂玉の他にも色々和菓子がありますが、中でも「宗祇」は、日本の名水百選の最初に選ばれた宗祇水から取ったものと説明されていますが。

はい、「宗祇」は郡上八幡を代表する観光名所である宗祇水から名前をとったくみ餅で、うちのお店は宗祇水へ入る横道の角にあることから、こう命名したようです。



ジーンズで作ったGJ8マン。

さくらももごさんが自らの想いで作った郡上八幡のキャラクター、GJ8マンに似ている 会長。しばしば「モデルですか?」と聞かれるそう。



梅窓院観音堂での郡上八幡物産展で中島住職と並ぶ 会長。二人の手には桜間見屋の肉桂玉と黒肉桂が。

◆お店の住所は八幡町本町ですが、本町というと、まさに郡上八幡の中心地になるのでしょうか。

ええ、本町は旧市街地の中心で、大正年間に大火災が発生、大きな被害を受けました。幸い桜間見屋の暖簾は難を逃れました。ですので、今も毎日掛けたり外したりする時に伝統の重さを感じています。

◆そうした歴史あるお店を継ぎつつ郡上八幡の観光協会会長に就任されたとのことですが。

はい。前任の会長が、かつてこの「青山」の表紙も飾った事のある さんですが、 さんは10期20年会長を務められました。今回は若返りということもあり、お受けさせていただきました。

◆そうですか。では、ここからは観光協会会長として伺います。郡上八幡の魅力はなんでしょう。

「水」と「踊り」の町ですね。

先程お話した宗祇水が流れ込む小駄良川と、町の真ん中を流れる吉田川、この二本の清流と、梅窓院を開かれた青山家が推奨した「郡上おどり」、この二つがなんと言っても郡上八幡の魅力ですね。

◆なるほど。東京・青山の郡上おどりは現在、会場を秩父宮ラグビー場に移し青山の風物詩のひとつになりつつありますが、元々は梅窓院の旧境内で始まった梅窓院と郡上八幡の合同行事ですね。

そうです。梅窓院さんの協力を得て始めた頃は、地元の人たちが来ず、私たち郡上の人間と梅窓院の職員だけで踊っていましたね(笑)。それを言えば、この物産展もそうですし、郡上八幡は青山家とその菩提寺の梅窓院さんには足を向けて寝られないですよ(笑)。

◆いえいえ(笑)。

郡上おどりはひと夏で数十万人の方が踊りにくると聞きますが……。

お蔭さまで、郡上おどりは4日間の徹夜踊りがピークですが、ひと夏三十二夜、欠かさず踊られる皆勤賞の方も10人以上いますよ。

そのなかには長野県から毎日通ってくる方もいますから。◆全国に有名な踊りは数あれど、郡上おどりは本当に特別ですね。その郡上おどりのある夏以外の季節はいかがでしょう。

郡上八幡は山々に囲まれていますから、11月は少々寒いのですが、この頃の紅葉はそれは綺麗です。また、冬場は猪鍋が美味しいですね。春から夏にかけての鮎ほど有名ではありませんが、いわゆるジビエ人気もあり、多くの方がお鍋目当てで来られます。また奥美濃の古地鶏も有名です。自然に恵まれている、ということなのでしょう。

◆本日はありがとうございました。



## ルパティシエタカギ 青山店

今回は梅窓院から徒歩3分の「パサージュ青山」の中にあるルパティシエタカギ青山店を紹介いたします。

お店のロゴマークに描かれているマドレーヌが有名で、世田谷深沢に本店を構えるパティスリー(洋菓子店)です。

店頭のカッキーを食べられるイートインスペースのあるお店は、この青山店だけでお茶やお菓子、カッキーはもちろんです。また、68席の雰囲気のある落ち着いた本格的なカフェになっています。

オーナーシエフの高木康政氏がフランス修行時代にフランスのパティスリーが料理やパンも提供していたのを見て、

「こういつたお店をぜひ日本にも」と青山という場所を選び、夢を実現したお店。高木氏のお薦めは「牛肉をじっくり煮込んだビーフシチュー」。

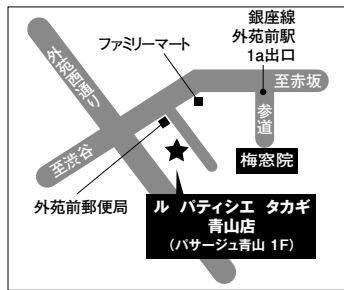
野菜のうま味が溶け込んだ肉が口の中とろけます。

ランチは5種類あり、バターのいい香りが立つ「キッシュセツト」もお薦めです。もちろん、ケーキや焼き菓子、チョコ

レートも購入できます。法事に来ていただいた方へのお土産にマドレーヌの詰め合わせなどいかがでしょうか。まずは一度足をお運び下さい。



「キッシュセツト」3種類の中から好きなキッシュを選びます。1890円。



営業時間 / 11:00~21:00 (L.O. 20:00)  
ランチ 11:00~14:00

不定休  
席数 / 68席 (テラス席あり)  
住所 / 東京都港区南青山2-27-18  
パサージュ青山 1F  
TEL / 03-6459-2667



「牛肉をじっくり煮込んだビーフシチュー」スープ、パン2個、コヒまたは紅茶、デザート付き。1944円。



ランチをテラス席でも楽しめるおしゃれなお店。

## 青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

### ◎特選

○ 薄氷は甕に漂ひ稚魚の影

### ◎入選

○ 内定で孫晴れやかな卒業式

○ 「おはよう」といつも通る子卒業す

○ 色淡し向ひの丘の初桜

○ 青空へ総立ちしたる白木蓮

○ はらからは皆古稀を過ぎ春彼岸

○ 鐘ひとつ続いてひとつつ春夕焼

○ ちやぶちやぶと潮満ちきたる春の川

○ 若芝に座りしままの老夫婦

○ リュック背負ひ春風に乗り嫁ぎゆく

○ 花にらの脇に回収古紙を出す

### ◎選者詠

○ 釣りをれば向うの土手をゆく遍路

大崎 紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

「季節が付き過ぎ」ということがよくわれます。季節と事柄が余りに合い過ぎているか、事柄の答が季節だつたりする場合があります。わたしたちの句会で(門前のそば屋に水車春の水という句が出て、大変好評でした。しかし、わたしは「水車をまわしているのが春の水では、少し当たり前で、それこそ付き過ぎではないか」として、試しに「春の水」の代りに「黄水仙」を付けてみました。(門前のそば屋に水車黄水仙)。さて、いかがなものでしょうか。

### 投句募集

今回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月3日を締切り、9月発送の『秋彼岸号』にて発表致します。

住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。

皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38

梅窓院「青山俳壇」投句募集係

### 「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室

電話03-5368-1870

# 食は命

食養研究家  
武鈴子

夏の薬食「ゴーヤー」

第六十七回

夏の暑さでほてった身体は冷たいものを喜びます。スイカにトマト、きゅうり、茄子、メロン、冷や奴、そーめん、冷麦……。いずれもひんやりと口当たりよく、ほてった身体に心地よい食べ物です。

しかし、夏を健康に過ごすための食べ物は、「体を冷やす」ものよりも、体内にこもった「熱を冷ます」働きがあるものです。五味(酸・苦・甘・辛・鹹)の中では苦味の食べ物。春の山菜、ふき、筍、よもぎ、新茶、新ごぼう……。これら苦味の食材は、強心、消炎、止血、解熱、鎮痛作用があり、体内の熱を冷まして、夏にオーバーヒートしやすい心臓の高ぶりを鎮める効果があります。さらに、苦いビールを飲むとトイレが近くなるように、利尿作用が高く、体内の余分な水分の排泄を促します。

夏の食べ物では、沖縄名産の「ゴーヤー」がその代表。暑熱による口や喉の渴きをいやし、イライラを静めて不眠を解消し、身体のを静めて、食中毒を防ぐ……という働きで、暑苦しい夏の身体の不調を取り除いてくれる優れたものです。現代栄養学でも独特の苦味は抗酸化物質で、動脈硬化を予防し、ストレスを解消する効果が証明されています。

沖縄の郷土料理「ゴーヤーチャンプル」はいまやどこでも食べられますが、沖縄では、島唐辛子を泡盛りに漬けた辛味調味料「コーレーグス」を振りかけて食べています。苦味(陰)に辛味(陽)を加えてバランスを取っているのですね。何をどう食べるか、食べ方の大事さを教えられます。

## 行事予定

### 開山忌法要・能楽奉納

6月10日(土)

法要 午後3時～ 本堂

能楽 午後4時～ 祖師堂

※能楽奉納からのご入場はできませんので、法要からご参列下さい。

### 第71回 念仏と法話の会

6月26日(月)

11時30分～(受付11時より開始)

### 盂蘭盆会法要

7月13日(木)

午前10時半～ 祖師堂

※詳細は3面をご覧ください。

## お檀家さんに伺いました

平成29年春彼岸法要にて

### 「魅力的なお寺です。」

春彼岸にかかわらずお寺行事の法要は心が洗われるため、毎回出席しています。ご住職の挨拶では梅窓院の近況をいつも報告して下さるので、安心できます。また、春彼岸の物産展、呈茶、寄席はお寺では珍しい行事で、とても魅力的に感じています。

### 秋彼岸写真展開催

春彼岸よりお伝えして参りました秋彼岸写真展の応募要項を同封致しました。是非皆様ご参加下さい。



発行 梅窓院  
発行日 平成29年6月1日  
発行人 中島 真成  
編集 青山文化村  
住所 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話 03-3404-8447  
FAX 03-3404-8436  
ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題字 中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

## 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

### 日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

以前よりご案内させていただいているペットのお位牌代わりとなるご自宅用のオーナメント(置物)ですが、今までスワロフスキー製をご案内しておりましたが、こちらの販売が終了しました。その後、新しいオーナメントを探しておりましたが、ようやく良いものをご案内できることになりました。アーチ型、エッグ型の2種類で、いずれも一つ1万8000円のとても素敵なオーナメントです。



可愛かったペットちゃんの思い出にいかがでしょうか? 家族だったペットちゃんもお盆には帰ってきてくれる気がしませんか? 何か好きだったものを飾ってあげばこっそり遊んでくれるかもしれません。

ご興味ある方はお気軽にお問合せ下さい。お知り合いの方で一般のお墓を探している方のご紹介もお待ちしております。

## 平成29年度 前期 仏教講座のご案内

場所 祖師堂(地下2階) 受講料 無料

講座 午後5時～7時(受付は午後4時から)

講題 『往生要集』を読む(1)

講師 新井 俊定 先生(天然寺住職)

- 第2回…7月 5日(水)「厭離穢土」(2)一人道とは
- 第3回…9月 6日(水)「欣求浄土」「極楽の証拠」一極楽浄土とは



講題 大乘仏教を読む—『維摩経』シリーズ(5)

講師 勝崎 裕彦 先生(大正大学名誉教授、香蓮寺住職)

- 第1回…6月29日(木) 見阿闍梨品第十二の教え
- 第2回…7月27日(木) 法供養品第十三の教え
- 第3回…8月24日(木) 嘱累品第十四の教え



講座 午後6時～8時(受付は午後5時から)

講題 続『無量寿経』(巻上)を読む

講師 阿川 正貴 先生(浄土寺住職、大正大学講師)

- 第3回…8月 8日(火)「巻上」まとめ



講題 法然上人のみ教え—『選択集』を読む—

講師 林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺住職)

- 第2回…6月15日(木)『選択集』第11章 念仏行者の誉れ(1)
- 第3回…7月24日(月)『選択集』第11章 念仏行者の誉れ(2)



講題 日本人の通過儀礼(上)—生き方を問う民俗学入門—

講師 本林 靖久 先生(大谷大学・佛教学部講師、真宗大谷派僧侶)

- 第1回…6月 2日(金) 妊娠儀礼
- 第2回…8月 4日(金) 誕生儀礼
- 第3回…9月15日(金) 成人儀礼



今年度より、講座の時間が2通りに変更となりました。